

山口県教育委員会会議録

日時：平成28年5月27日

場所：山口県教育庁教育委員会室

<p>教 育 長</p>	<p>ただいまから、5月の教育委員会会議を開催いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 岡野委員と宮部委員、よろしくお願いします。 それでは、議案の審議に入りたいと思います。 議案第1号について、特別支援教育推進室から説明をお願いします。</p>
<p>特別支援教育推進室次長</p>	<p>平成28年度の山口県教育支援委員会の委員につきまして御協議をお願いいたします。教育支援委員会の委員につきましては、「山口県教育支援委員会規則」の第3条第2項の規定により、教育委員会が任命することとなっております。 委員の任期につきましては、同規則第4条の規定により2年間となっており、今年度が委員の改選に当たりますことから、お諮りするものでございます。 委員候補者は、別紙1でお示ししておりますように再任が13名、新任が1名の14名でございます。委員候補者はいずれも障害のある児童生徒の就学相談の経験を有する、福祉分野での学識経験者、医療分野での専門医、行政機関の職員及び教育関係者でございます。 新任委員1名の交替の理由は、山口県私立幼稚園協会の役員の交替によるものでございます。なお、委員の任期は平成28年6月1日から平成30年5月31日までとなっております。以上、よろしくお願いいたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ただいま特別支援教育推進室から議案第1号について説明がありましたが、御意見、御質問がありましたらお願いします。 よろしいでしょうか。それでは議案第1号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承認。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、議案第1号を承認いたします。 続いて報告事項に入ります。報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
<p>教 職 員 課 長</p>	<p>それでは平成29年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について御報告いたします。</p>

今年度実施する採用試験の概要につきましては、3月15日に実施大綱として発表し、3月の教育委員会会議において、また、採用見込者数については、算定方法とあわせて4月の教育委員会会議において説明をさせていただいたところです。このたび、採用見込者数を含めた試験の詳細な内容を、5月12日に実施要項として発表し、志願書類とともに志願者への配付、募集を開始しましたので、これまでの説明と重なる部分もごさいすけれども、その概要を改めて御報告いたします。

資料の6ページを御覧ください。はじめに、1の(1)の選考区分等についてですが、アの一般選考からキの看護科・理療科教諭特別選考まで7つの区分で実施をします。

次に、(2)の採用見込者数についてですが、全体で419人程度としており、昨年度の415人程度から、4人の増加となっています。校種別、教科(科目等)別の内訳については、下の表にお示ししているとおります。

次のページに参りまして、2の志願書類受付期間は、要項発表の翌日の5月13日から受付を開始し、6月3日までとしています。

3の試験期日につきましては、第一次試験を7月16日(土)、17日(日)の2日間、第二次試験を、8月20日(土)、21日(日)の2日間を実施することとしています。小学校の個人面接については、21日(日)から23日(火)までのうち指定する1日を実施いたします。

次のページに参りまして、4の試験会場は、1次試験は山口会場の県内3高校と、東京会場の國學院大學たまプラーザキャンパスで実施し、2次試験は県内4高校で実施いたします。

5の試験内容はお示ししているとおります。6の結果発表は、1次試験は8月9日(火)、2次試験は10月5日(水)の午前9時としています。

次に、7の試験の主な変更点についてですが、今年度は2点について変更を行います。

まず、(1)の志願区分に「栄養教諭」を追加についてですが、食に関する指導の中核となる栄養教諭の新規採用を開始するため、新たに栄養教諭の志願区分を設けます。

次に、(2)の社会人特別選考(高等学校水産)における特別免許状の活用についてですが、高等学校の水産については、教員養成機関が少ないことから、当該免許状を所有する者が少ない状況にあります。そのため、社会人特別選考で高等学校の水産を志願する者については、特別免許状制度を活用することを前提に、教員免許状がなくても受験できることといたしました。

8の志願書類の請求等については、お示ししているとおります。最後に、次のページ、9のその他についてです。

	<p>要項発表後、5月13日から22日までの間、お示しのとおり教員採用候補者選考試験説明会を実施いたしました。</p> <p>県内7会場、県外7会場の、合わせて14会場でパンフレット及び志願書類を配付し、平成29年度試験の変更点や試験内容等について周知するとともに、試験に対する心構えや教員になってからのことなどを現職教員から熱く語ってもらいました。</p> <p>参加人数は表にお示しのとおりで、空欄部分でございますが、山口学芸大会会場は77人、大阪会場は32人、東京会場は45人の参加があり、全体では766人の参加を得、昨年度からは50人の増加となりました。</p> <p>以上、平成29年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について御報告いたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま教職員課から報告事項1について説明がありましたが、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p>
佐 野 委 員	<p>この先、定年退職を迎える先生方が非常に多くなるかと思しますので、それを見込んでの採用が行われますけれども、年齢構成があまり歪にならないように、バランスのとれた選考をしていただければいいのかなと思うところもあります。また、いろいろな特技をお持ちの方とか秀でた才能を持っていらっしゃる方も採用されれば、全体により形になるのではないかなと期待いたします。</p>
教 育 長	<p>よろしいでしょうか。年齢構成は、以前はかなり歪になっていたのですが、最近を受験年齢の緩和ということもありますし、若い人が多くなっている状況にあります。ただ、50代の教員の大きな膨らみの部分はあります。だいたい解消されつつあるという形ですね。他には何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、この件については、報告のとおり承ります。</p> <p>次に、報告事項2について、高校教育課から説明をお願いします。</p>
高校教育課長	<p>平成28年3月新規高等学校等卒業者の就職状況等について御報告いたします。</p> <p>お手元の資料10ページの方を御覧ください。</p> <p>この表は求人、求職、求職状況につきまして山口労働局発表、3月末資料を基に作成したものであります。数字は各枠の下の段が本年3月末、上の段の括弧内が昨年3月末の数値となっております。</p> <p>まず、求人数。Aの欄にありますように、全体で4,975人であり、昨年同期の括弧内の4,469人に対し506人、率にしまして11.3%の増加となっております。</p> <p>次に、就職を希望する生徒の数、これはBの就職希望者数の欄にな</p>

りますが、県内県外合わせて合計で3, 221人であり、昨年同期の括弧内の3, 133人に対して88人、率にして2.8%増加しております。また、Eの未内定につきましては合計で18人となっております。

さらに就職内定率、Fの欄にありますように、これは全体で99.4%、この数値は3年連続99%台を維持しまして、過去2番目に当たる高水準となっております。

さらに、県内就職率はGの上の段にありますように80.5%、昨年度に比べ、若干減少している状況であります。

続きまして、今年度の就職支援対策についてですが、資料の11ページを御覧ください。基本的な方針はそこに書いてございますように、新規高卒者を取り巻く雇用情勢の変化に迅速に対応するため、今年度も引き続き、ガイダンスの充実、求人開拓の強化、マッチングの促進、これを3つの柱といたしまして、関係機関との連携を深めながら、組織的できめ細かな就職支援により、就職を希望する全ての生徒の進路実現を図ることとしております。その下の方に、就職支援に係るスケジュールをお示ししているところでございます。

12ページには、やまぐちの活力を支える高校生育成事業、その中で県内就職促進関係の事業概要をお示ししております。各事業ともほぼ昨年度と同様の内容で実施いたしますが、(3)に示しております、県内就職促進協議会につきましては、県内7地区の実施に加えまして、今年度は参加希望の事業所が多数ありましたため、臨時の協議会を6月21日に開催することといたしました。

それから、(5)の県内就職ガイダンス等の充実事業のうち、地域産業魅力発見セミナー、これにつきましては昨年度との変更点として、今年度は対象を普通科も広げて開催することとしております。今年度も引き続き、就職を希望する全ての生徒の進路実現及び高校生の県内就職に向けた取組を学校関係機関と連携しながら積極的に推進してまいります。以上であります。

教 育 長

ただいま高校教育課の方から報告事項2について説明がありましたが、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

中 田 委 員

10ページのところでありますが、就職希望者はほとんど就職できているという状況でありまして、これは非常にいい傾向だなと思っております。最初、卒業時に非常に高い率で就職されるのですが、大学でよく言われていますが、3年ぐらいのうちに相当な率の方が、最初に就職したところを辞めていくというようなことを、新聞でもよく言われていますけれども、高校生の場合はそういうことはないのでしょうか。

もしあったら、卒業後、何年くらいまで学校が関与して就職につながる活動を、現役の学生さんと同じような形でしておられるのか教え

	<p>ていただければ結構です。お願いします。</p>
教 育 長	<p>離職率等に関する質問ですね。</p>
高校教育課長	<p>離職後の対応については、何年というふうに明確に決めている部分ではありませんが、学校の教員等が求人開拓等で企業訪問をする際に、既にそこで勤務している生徒の状況等を把握しながら進めております。実際に企業とのマッチングを十分に行って就職したけど、こんなはずじゃなかったとならないように、事前のマッチングをしっかり進めること、それと就職後の状況の確認を行いながら、離職率が高くならないように進めております。</p>
教 育 長	<p>3年間の離職率はわかりますか。</p>
高校教育課長	<p>直近のデータでは高校生の場合、3年間での離職率は39.5%となっております。</p>
中 田 委 員	<p>それは大学生の場合でも全く同じなのですが、最初はここへ行きたい、こういう仕事をしたいという希望を持っていても、必ずしも希望どおり就職が決まるわけではないけれども、とりあえずは食べていかなければいけないので就職する人ももちろんいるとは思うんですね。</p> <p>だから、今の数値は僕が想定したよりちょっと多いかなという感覚がありましたが、やっぱり今のマッチングの問題が大きいとは思いますが。それと基本的には田舎の県ということで、それほど求人数が多くないというのが大きな原因だとは思うんですけども。</p> <p>商業や工業高校とかは、かなり現場の、仕事のニーズを反映して学校のカリキュラムが編成されているとは思うんですけど、普通高校ですと、どうしても受験が中心になっているんじゃないかと思うんです。そうすると、普通高校の中でももちろん就職する方、クラスもありますよね。そういう人たちが現場のニーズと合っていないような教育がもしかしてされているのではないかなというように考えるんですね。職業高校に比べると、どうしても就職への意識が普通高校の場合には少なく、カリキュラムは私が学生時代の頃とあんまり変わっていないような気がするんですね。その辺りのことはどうなのでしょう。実際に普通高校の中でも就職する人たちがたくさんいるので、その人たちに対する現場のニーズ、職場がどういう学生を求めているのかということと、就職を目指す人たちへの教育です。こういうことが上手くマッチングしているのかなということなんです。</p>
高校教育課長	<p>普通科高校と専門高校等はカリキュラム、目指すところが基本的に違うというところはございます。普通高校の生徒においても就職を希</p>

	<p>望する生徒に対して、専門高校等に主に配置しておりました就職支援サポーターを近隣の普通科高校で就職を希望する生徒に対しても、就職相談、サポート等を行う体制をとりながら、できるだけマッチングを図れるように進めている状況であります。</p>
<p>中 田 委 員</p>	<p>思いつきなんですけど、普通高校におられる先生方というのはどうしても受験科目にあるような領域の先生方が多いと思うんですね。職業高校というのは、職業を意識して配置されているわけですから、商業高校が近くにあった場合は、普通高校の一部の授業でもいいので、その専門高校の例えば商業関係の授業とうまく連携をとって授業を受けられるような仕組みができるといいかなと。もう少し現場に合った、例えば、コンピューターや簿記、あるいは語学などが、もし専門高校の方により多く配置されていたら、その先生という資源を有効に利用できるのではないかなと。まあ思いつきなんですけれども、もし考えていただければ。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>実際その形が可能かというのはありますけれど、今、普通科高校の中でも、そういった子どもたちのニーズに合わせて、選択科目の中で選択できるような形をとっている学校もあります。それはあくまでもニーズが多い状況の中での対応なので、1人の中でできるかという難しい面もあるかもしれません。今後そういったことも考えていきたいと思います。</p>
<p>宮 部 委 員</p>	<p>中田委員さんの質問に続いての質問、マッチングの話なんですけど、実は、今、求人倍率が大変高い状態で、地元はなかなか人手不足ということで各産業は皆困っているわけなんです。我々の会社が高卒採用の手続をしますと、やはり実業学校、専門学校にしてもニーズが限られていて、割り振りが決まっているから、例えば3人の求人に対しても1人ですよという答えの中で、回していただけるんですけど。</p> <p>それで、先ほどのお話に戻りますが、普通高校へ求人のお話に行くと、例えば、話の入口から、建設業ですかという話になるわけです。実際は業務の管理をするわけですから、別に専門の学科を卒業してなくても、いくらでも仕事ができるという会社の思いで募集に行くのですが、なかなかその先生方の思いで、そこから進まないというのが現実ですね。</p> <p>実業学校についてはインターンシップもありますし、それぞれのやり方で会社の実態というのは建設業に限らず、みんなそういう形で生きていると思うんですけど、それではうまくいかないかなと。ただ現実には100%近く就職されているわけですから、地元企業としては、その人材確保に大変苦勞しているというのが実情です。</p> <p>今の普通科の生徒さんたちがうまくいく中で就職する可能性ができ</p>

	<p>れば、またいいんじゃないかなと思っています。それとさっき出ていましたが、3年で3割強が離職するという話ですが、これも離職後では実は取り合いになっているんですね、地場は。人が足りないということで、もううちの会社なんかも、盆正月に友達が地元に戻ってきたら、うまいこと話をしてということで、最初はみんな分からなくて入っているわけなんで、そういった事でも人のその奪い合いと言いますか、ただ仕事が合わないから辞めるんでなくて、条件がそれぞれの会社が違うわけなので、特に、一部上場企業の勤務から地元企業へというのは結構差がありますので、そこらで人が動くというのもあるように聞いております。</p> <p>もう1点質問なんですけど、県内と県外の考え方ですが、一部上場企業に行く場合、地元勤務と本社勤務の両方あるんですけど、例えば、マツダの防府工場に勤務するとしたら、これは県外就職になるのか、県内就職になるのか。岩国から行く場合は、マツダの本社の工場に行く者も多いんで、たぶんこれは県外だと思うんですけど、例えば防府の場合とか、本社と事業所の関係はどういう扱いになるんですか。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>今の具体的な話でいきますと、マツダは防府であれば、県内就職ということになります。要はその採用がどこの事業所での採用であるかということですので、その場合は、本社は当然広島ですが県内の就職という形になります。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>私の身近な人間が就職活動している話を聞いて、大手の企業さんの情報はよくわかるんだけど、地元の中小企業さんの内容はあんまりよくわからないので、どこ行けばそういう情報があるんだろうって聞かれたことがありました。その辺の情報提供をどのようにされているのかということと、テレビで浅原教育長が企業にPRされて頑張ってるのを見まして、いろいろな活動されていらっしゃるのか、少し教えていただければと思っております。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>県内企業に大手、中小ありますが、できるだけ理解と促進を図るために、学校の方でも情報提供に努めているところではあります。それともう一点、求人開拓の関係で教育長、知事、商工労働部長等が、各県内企業、商工会議所等の団体も含めて、求人をお願いをする中で、さまざまな情報交換をしながら行っているところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>求人開拓は、知事や商工労働部長、あるいは教育長、それぞれポイント合わせて、いろんなどころへ行って、すべてを回るわけではありませんけれども、お願いして回っております。そういう中でさっき話がありましたように、有効求人倍率が1倍を超えているなかで、求人を出してくれ出して言われるけど、逆にその求人を出しても</p>

	<p>人が来ないっていう話もあちこちで聞かれる状況ではあります。</p> <p>そうは言っても、ここにあります18人が未内定で卒業している。就職希望でありながら、就職が決まらずに卒業しているという者がおるとい状況の中で、できるだけ求人たくさん出していただくように、お願いをし続けているという状況ではあります。</p>
石 本 委 員	<p>11ページの資料なんですけど、3月末で終わっているような形になっているんですけど、日本は3月が節目ということで、こういう形になるかと思うんです。2月、3月に大学に落ちてしまって就職しようかと思う方とか、3月になっても就職が決まらなくて、とりあえず入れるところに入ってしまうおうという人とかのことを考えれば、もうちょっと先まで支援して考える、自分に合ったところに就職できれば、離職率も減ってきますし、採用枠が残っている企業さんとかも助かっていくんじゃないのかなと思ったんですけども、3月後の支援というのはどういう形でされているんでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>3月末段階で未内定の者、昨年度末で18名ですが、この子達については、引き続き関係機関と学校と連携しながら、情報を提供しながら支援に努めている状況です。</p> <p>ちなみに、一昨年度末に17名の者が未内定で残ってございましたけど、現時点では全員が内定、進学先が決まっている状況ではあります。</p>
岡 野 委 員	<p>私は自分が就職したことがない人間ですから、よくわからないのですが、高校の就職担当の先生方が大変苦労されて、いろんなところを訪問されていることはよく伺っています。</p> <p>大変なお仕事をされているなあとということで、99%という就職率が出たということは素晴らしいことだと思うんですけども、先ほど中田委員さんが言われたように、3年後には約40%の学生が離職しているという数字を聞いたときに、就職をするときに、どうしてももう少ししっかりと雇う側と雇われる側との話し合いができて、意思の統一と言いますか、そういった事ができてれば、これだけ離職率が大きくななくてすむんじゃないかなと。なぜ辞めなければいけないか、そこら辺がきちんとデータとして出ているのか。辞める理由はやっぱりあると思うんですよ。辞めさせられることもあるかもしれないけれど、そこら辺がきちんとできてればいいんじゃないかなと思います。</p> <p>こんなに離職率が高いというのが、どうしても信じられないというのが1つ。それからもう1つは、東京の方でも就職説明会というのがあるとありますけれども、県外で就職説明会があるということは、そこに来られる学生たちはおそらく、山口県に帰ってみようかという気持ちがあって受けているんでしょうか。それとも、いろんなところの話</p>

	<p>を聞いて、自分の知りたいところを見つけようと思って説明を受けに行かれるのか。県外で説明会を受けた人達ってというのはどれぐらい山口県に帰って来ているのか、その辺の人数というのもちょっと知りたいなと思うんですが。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>今の高校卒、就職の段階において、県外の説明会には参加しておりませんので、県外に実際に就職している部分ということになります。そのため説明会ということで、県外の方ではない状況です。</p> <p>それと最初にお尋ねがありました、離職率の関係についての対応は、先ほども申し上げましたようにいろんな制度があります。職場見学ということで、実際に就職する子が企業に行ってどんな感じであるか実際に見たりするなかで、ただ全員ではないですが、できるだけマッチングに努めております。</p> <p>ただ、なぜ辞めたかという状況は、統計的にこちらで把握しているものはありませんが、実際は思っていたものと違ったとか、企業の側からすれば、以前だったらこれで辞めるはずはないのという声も聞いたりすることもあります。そういった就職先でも頑張っていけるような育成も大事なのかなと思います。</p>
<p>岡野委員</p>	<p>3年ぐらいは学校がある程度サポートして下さるんですか、辞めた後も。それとも、1回は採用の時にきちんとお手伝いをするという。その後は自分たちでやって下さいっていう形なんでしょうか。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>特に何年という規定があるわけではなくて、就職して辞めた卒業生が学校に戻ってきた場合は、教員が相談に乗りながら、ハローワーク等に行くとか、相談を受けて対応することはあります。ただ、中には辞めていること自体を把握できないケースもありますので、その辺を学校としては、ある程度そういう状況が分かったときにできる支援をしている状況ではあります。</p>
<p>岡野委員</p>	<p>ありがとうございます。もう1件いいですか。どういうところに就職しているかっていうのはすごく気になるんですが、その中で1つ、山口県は1次産業をきちんとしなきゃいけないっていう話がよく出るんですが、そういった関係への就職をしている人がどれぐらいいらっしゃるんですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>第一次産業の就職率を調べていますか。労働局のデータもありませんか。すぐに出て来なければ、また後でお知らせしましょう。あるかどうか見てみます。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>また確認させていただきます。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>後ほどお知らせしましょう。だいぶ御意見いただきました。よろしいでしょうか。就職について、またしっかりと取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>それでは、この件については、報告のとおり承ります。</p> <p>続いて協議事項に入ります。</p> <p>協議事項 1 について、高校教育課から説明をお願いします。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>それでは、県立高校の再編整備等につきまして御協議をお願いいたします。昨年 10 月に、平成 27 年度から平成 30 年度を期間とする再編整備計画を策定いたしまして、これまで学校、地域の関係者との意見などもお聞きしながら、実施時期等の具体的な内容について検討を行ってきたところです。本日は、そのうちの、響高校と豊北高校の再編統合、それと宇部高校、下関西高校への探究科の導入につきまして、導入に伴う平成 29 年度学科改編について御説明いたします。</p> <p>お手元の資料 14 ページをお開きください。</p> <p>まず、響高校と豊北高校の再編統合についてです。中学校卒業生数の減少に伴う学校の小規模化が見込まれる中、より質の高い高校教育を提供するため、再編整備計画に基づき、両校を再編統合する方向で進めたいと考えております。</p> <p>まず、両校統合後の新高校のコンセプトですが、「1」にお示ししておりますように、両校の歴史や伝統を踏まえた学校とするため、「地域と連携・協働する教育活動の推進により、郷土への愛着と誇りを育み、未来社会に対応できる実践力を培う学校」とし、その下に 3 点お示しした人材育成をめざした学校にしたいと考えております。</p> <p>次に、新高校の概要であります。実施年度につきましては、「2(1)」にありますように、全県及び下関地域の大幅な生徒減少に対応するため、平成 30 年度にしたいというふうに考えております。</p> <p>統合後の校地につきましては、両校の立地状況や志願・入学者の状況、地理的条件、あるいは交通事情等による生徒への影響など、様々な視点から検討を行いましたところ、豊北町の中学生は、地理的条件、交通事情により、進路先が限られている状況にあるということ、それから両校の入学者の出身地を見ますと、豊浦・豊北地域からの入学者については豊北高校の方が多く状況にあること、さらに県全体の高校の配置バランスを踏まえると、豊北の地に高校がなくなれば、下関北部の広い範囲が高校配置の空白地帯となる、そのなかで地元中学生に与える影響が大きいこと、そういった理由から、豊北高校の校地にしたいと考えております。</p> <p>設置学科につきましては、両校の現在の設置学科を継承し、普通科とする方向で考えております。</p> <p>(2) にあります、新高校への移行につきましては、新高校では、</p>

平成30年度に第1期生が入学し、そして、平成32年度で1年生から3年生が揃うこととなります。

次に、教育の特色の方向性についてです。

新高校では、両校の歴史や伝統などを継承した取組を検討することとしており、その(1)から(4)にお示ししておりますように、1点目は学力の向上により生徒の進路希望に応える教育の推進、2点目は地域と連携・協働した教育の推進、3点目が生徒の社会的・職業的な自立を促す教育の推進、そして4点目に豊かな心を育む教育の推進、以上の4点を柱とした学校づくりを考えております。具体的には、例えば、豊北高校が長年実施してきた、大学進学をめざした習熟度別の授業、そういった取組でありますとか、響高校の方で伝統的に実践している、ハングルや中国語の学習、こういった学習を中心とした国際教育などを特色にしたいというふうに考えております。

なお、具体的なこうした内容につきましては、教育内容につきましては、今後、様々な方からの御意見も伺いながら、学校と密に連携して検討してまいりたいと考えております。

4番目に部活動についてですが、現在、両校で開設されているものを可能な限り継続するとともに、中学生のニーズ等を踏まえ、部活動の運営について検討し、部活の活性化を促進することとしております。

資料の方にはお示ししておりませんが、今後のスケジュールですが、この本日お示した再編統合の具体案につきましては、来週になりますが、6月5日(日)に滝部公民館及び川棚公民館で地域説明会を開催し、地域の方々にも直接御説明するとともに、6月の県議会文教警察委員会においてもお示しし、御意見を伺うこととしております。

両校の再編統合につきましては、こうしていただいた様々な御意見等も踏まえながら、検討を重ねた上で決定していきたいと考えております。このような方向性で両校の再編統合を進めることとしてよろしいか、御協議をお願いしたいと思います。

合わせましてもう1点の「平成29年度 山口県公立高等学校の学科改編」について御説明いたします。

資料の方は16ページを御覧ください。

まず、学科改編の内容についてですが、「1」にありますように、平成29年度から、「探究科」を、宇部高校と下関西高校に導入したいと考えております。このことにつきましても、県立高校再編整備計画の中で、両校に探究科を導入する方向で検討することをお示したところ です。

この計画策定後、探究科のあり方を検討する委員会を立ち上げ、学科の目標でありますとか、学習内容など探究科の方向性について協議を進めてまいりました。

<p>教 育 長</p> <p>岡 野 委 員</p>	<p>探究科とは、そこにお示ししておりますように、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力を高め、主体的・協働的に課題解決を図る学習を重視する学科としております。</p> <p>探究科の導入によりまして、現在、国の方で進めております「高等学校教育改革」、あるいは「大学入学者選抜改革」などで重視されている、質の高い深い学びをめざす「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習活動の充実でありますとか、学力の多面的・総合的な評価などに、いち早く対応することができると考えております。</p> <p>さらに、大学等への進学に重点を置く取組を拠点となって進める学校、高校として、地域の期待に応える、新たな魅力づくりにもなるものと考えております。</p> <p>なお、「探究科」にはその枠にも示してありますが、「人文社会科学科」それと「自然科学科」この2学科を設置し、これに伴いまして、現在の理数科、この募集を停止したいと考えております。</p> <p>次に、探究科のコンセプトですが、「2」にお示ししておりますように、新しい時代に求められる探究力の育成、それと高等教育での学修の基盤となる学力の育成、この2つを柱として掲げております。</p> <p>探究的な学習を行うことにより、自ら課題を発見し、その解決をめざして他者と協働しながら、主体的に課題解決を図ろうとする力を育むとともに、専門的な研究活動や教科の発展的な学習を推進することにより、大学等の高等教育での高度でより能動的な学修につながる、そういった学力を育てまいりたいと考えております。</p> <p>次に、3番目の教育の特色ですが、今申し上げましたコンセプトに基づきまして、探究的な活動を進める科目の設定、あるいは各科目における探究的な活動の導入、さらには理数・英語における専門科目の開設、ゼミ形式の授業、あるいはフィールドワーク等の体験的な活動など、多様な学習形態の導入、そういった特色ある教育内容により、探究力等を育成するとともに、より深い学び、高度な学習を展開したいと考えております。</p> <p>なお、募集定員、それから募集方法等につきましては、7月上旬に公表いたします、入学者選抜実施大綱の中でお示しすることとしております。</p> <p>このような方向性で宇部高校と下関西高校への探究科の導入を進めることとしてよろしいか、御協議の方をよろしく申し上げます。</p> <p>ただいま高校教育課の方から協議事項1について説明がありました。1つは響高校と豊北高校の再編統合。もう1つは探究科の導入ということであります。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>豊北高校と響高校の統合というので、あの地域から高校がなくなる</p>
-----------------------------	---

	<p>ということがないということが、とてもありがたいと思いますね。やはり、山口県内のいろんな地域に学校というのは核になりますから、ぜひ残していただきたいと思いますので、これで進めていただきたいと思います。</p> <p>今度、全県一区になりまして、今この地域の学生の数がどのように少なくなりつつあるのかというのを知りたいのが1つです。地域の方にしっかりと説明してください。地域のなかの学校、学校があるから地域があるというような感じで、地域の皆さんには理解というか、協力がないと学校運営も難しくなりますので、ぜひ地域の説明会のときにはわかりやすくきちんと説明をしていただきたいと思います。</p> <p>それから、もう1点、学科編成の件ですけれども、聞きなれない探究科という言葉が出まして、今説明いただけましたけれども、こういう科を作られるのは構わないんですが、こういうのを作って前に進んでいかれるのであれば、教職員の指導力の育成ということをきちんとやっていただかないと、ちょっと今までとまた少し変わってきているんじゃないかと思います。その辺もちょっと心配なので、先生方が指導をきちんとできるようにしていただけたらと思います。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>ありがとうございます。1点目のこの地域への説明について、しっかり地域の方でも説明していきたいと思います。子どもたちの人数のところでは、先ほど平成30年度からと申し上げましたが、30年度から31、32、33、4年間かけて下関市内の地域で約300人程度の子どもたちが減る状況になります。ということも踏まえて、その段階では統合した、両方合わせた形で新しい学校での取組に入れるようにしたいと思っています。</p> <p>それから2点目の探究科の設置に向けてということで、特に教員の資質能力の向上という点で、探究的な学習、先ほど申し上げたアクティブ・ラーニング等、これは探究科に限らず全教員がこういった資質能力を向上していく必要があるかと思えます。とりわけ、重点的に取り組む両校につきましては、臨採もそれに向けて研修等も重ねながら準備していくようになると思えます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>他にございませんでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>石 本 委 員</p>	<p>学科改編の方なんですけれども、理数科から探究科に替えたというのではなく、廃止して新たに作ったということで把握していいのでしょうか。理数科というのは、私のイメージでは理系の高度なことを勉強する科というイメージがあったんですけれども。探究科になると2つに分かれていまして、人文社会科学科が文系で自然科学科が理系に行きたいお子さんが行くのかなといったイメージができてしまったんです。普通科との違いが、名前を見ただけではよくわからないところ</p>

	<p>と、どういう大学とか職業を目指すお子さんにこの科を選んでほしいとか、選ばれればいいよとお勧めをしていいのかとか、そういうところの内容的なものとかイメージがちょっと湧かないので、その辺の御説明をお願いできますか。</p> <p>高校教育課長 最初に御質問がありました、理数科が探究科に替わるのかということですが、今の時代に求められる探究力を育成する、そういった子どもたちを育むということで、大学等の高等教育における学習につながる学力を育む、単に理数というだけではなくて、幅広い探究力を育成する新しい学科として、今回探究科を導入する方向で検討しております。</p> <p>その中で大きく人文社会科学系、自然科学系という二つの学科を設けるに当たりましては、理数科、ある意味理科・数学といった理数系に重点化していた学科、それはそのまま自然科学系につながる部分として、受け皿になり得るものとして理数科の方も募集を辞めるという形にしております。</p> <p>それとこの探究科の人文社会科学科と自然科学科、そこでどういった学習内容をするか、先ほど教育の特色の方向性で大まかな形で、こういったものを目指すということで、学力の向上等といろいろ申し上げました。この辺を具体的にできるだけ見える形に、特に一番上でいくと、基礎的な知識・技能に加えて、それを活用して課題を解決するまさに探究力をしっかり育てると。教育の特色として、特に探究的な活動を進めて、探究力や情報活用能力等をしっかり育成していく。</p> <p>それと高等教育における高度で、より行動的な学習につながるような学力を育むということを目指していくことを考えております。</p>
石 本 委 員	<p>中学生が選ぶときに、普通科か、人文社会科学科か、自然科学科に行くのかを選択するとき、これがあるからここに行きたいということが、中学生にもわかりやすいような説明があればいいなと思いました。</p> <p>どこに行こうかと迷ってしまうと思います。親としてもどこを薦めようというのがわからない。名前だけではちょっとはつきりとしなない。どういった大学の学部につながるんだよ、将来の職業のこういうことにつながるんだよというイメージが、ちょっと名前だけではまず湧きにくいなと私は感じました。</p>
教 育 長	<p>委員会を立ち上げて、宇部高校、それから下関西高校の関係者も交えて、具体的にどういうふうな教育をやるのかしっかり検討しているところなのですが、今、ちょっと十分説明できませんでしたが、学校、中学生に対しては、しっかりその辺りがわかりやすいように、選択しやすいように伝えていきたいなと思います。</p>

廣川次長	ちょっと補足いいですか。
教育長	はい、どうぞ。
廣川次長	<p>最近、報道等でよく話題になりますけど、これからの時代、例えば人工知能とかが、すごく発達してきて、やはり人間の力というのは、物を知っているとかが、そういうことだけでこれからは人間の力というものをもっと幅広く、別の面で求められるような時代になると。</p> <p>やはりこれからの教育は、自分たちで課題を見つけて、みんなといういろいろ相談をしたり話し合いをしたりしながら、その課題解決に向けてどんな手法を考えて取り組んで行くとか、そういった人材がすごく求められるんだというような考え方なんです。</p> <p>その中で、今、理数科には課題研究という授業があって、自分たちで課題を設定して、その課題に対して、チームを組んだり、外部の関係機関と連携をしたりしながら研究を深めていくという勉強をしています。今は理数科であればそれは理系の取組しかできないので、これからは例えば文系の生徒であっても、例えば地域課題で、今後の人口減少について地域はどういうふうになるべきか、そういうことを高校生が自分たちで課題を設定して、いろいろと自治体や商工会議所の協力を得ながらとか、そういった形で自分たちなりにいろいろと研究をしてみようという取組をしっかりとやらせたいということで、人文社会科学系というのも実はそういう取組を目指しているところなんです。</p> <p>そういう勉強をして、主には大学進学を目指して欲しいというふう到我々は考えていまして、大学の中でまたそういった力を活かして、より幅広い力を付けて、社会でしっかり貢献できるような人材にということで、こういう学科を今考えているところです。</p> <p>中学生に対しては、先ほども教育長の方からありましたけれども、学校説明会等も今後行いますので、その場でよりわかりやすく、イメージしやすいように、具体例等もしっかり入れながら説明をしていきたいと思っているところです。</p>
石本委員	はい、ありがとうございます。
教育長	はい、どうぞ。
佐野委員	<p>新高校への移行の方ですが、2つの高校がひとつになるということで、残念に思われる方もいらっしゃると思います。ただ、その中で、規模がないとできないこと、スケールメリットがないと実現できないことをよく御理解いただいて、更なる飛躍のための統合なんだっていうのを言っていたかかないと、やはり、全県一区という中で、特</p>

色のある高校にならなければ、統合してもまた次の段階で縮小という方向になってしまうのではという心配があります。

統合することで、何か特色のある、この学校だからというものを目指していただければいいのかなと感じております。まあ、学生さんが出ていくので、いたし方ないんじゃないのかなとも思いますが、やはり地域として、高校が必要ということもありますので、それを残すためにも、特色のある学校づくりが必要なのかなと思います。

それと探究科の方ですが、時代の要請でそういったものになってきていると思われま。応用力のある学生、子どもたちを育成していくという主旨だと思いますが、私も今議論を聞いていて、この探究科に入ったら、大学はどこに行くんだらうというところが、まだよくわからないところがあります。

その辺をちゃんと子どもたち、親御さんにPRできないと、志願する人もわからないかもしれないなとちょっと心配に思います。逆に、その辺をしっかりPRできて、新しい時代に合った教育なんだというのが、子どもさん、親御さんにわかってもらえれば、志願する方が増えて、新しい道が見えるのかなと感じております。理数科というんじゃなくて、理系文系両方併せて応用力を身に付ける新しい人材を育成するという考えでよろしいんでしょうか。

高校教育課長

今の御質問の方からいきますと、まさに仰いましたように理系・文系をひっくるめて、探究していく力を育成していく学科、具体的には人文社会科学科が文系的な要素を持ちますし、自然科学科が理系的な要素、理科・数学を専門的に高い学習の重点を置く学科というかたちになっているということになります。そういったことを、先程もありましたように、中学校等にわかりやすく説明していきたいというふうに思っております。

それと最初にお話されました響高校、豊北高校の統合につきましては、移行期においては、2年生、3年生だけが残る形となる年度もありますが、1年生、2年生辺りと必要に応じて一緒にできるところはやるなり、特に部活動あたりもそうですけど、子どもたちに制約とならないようにできる配慮や支援等をしていきたいと考えております。

教 育 長

はい、どうぞ。

岡 野 委 員

私もよくわからないんですけども、探究科の説明の件ですが、廣川次長さんがさっき仰いましたのは非常によく理解できたんです。だから、「探究科とは」のところも、皆さん行政用語というのをよく使われますけど、民間の方は行政用語がわかりませんよ、硬くって。だから、書類で出す場合は仕方ないにしても、説明会ときには理解できるようなもっとやさしい、普通の人が訊いてなるほどと感じるよ

<p>教 育 長</p>	<p>うな文言を考えて説明していただきたい。</p> <p>こういうところももう少しやさしく、理解しやすいように、人文科学科とか自然科学科がどういったものなのかというのを、もう少し理解できるような説明の仕方をされたら、皆さん十分お分かりになると思いますから、その辺ちょっと手を入れていただくとよろしいんじゃないでしょうか。</p> <p>しっかりそれを心掛けたいと思います。特に中学生やその保護者に説明するときに、こちらが思ったことが伝わらないと本当に残念なことになりますので、十分配慮したいと思います。ありがとうございます。他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは、今の話につきましては協議内容のとおりに進めていただきたいと思います。次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>次回6月の教育委員会会議につきましては、6月23日木曜日の午前9時30分から開催することとしておりますので、よろしくお願いたします。</p>